情報社会の発展拡充

デジタルデバイドを解消しよう

活動の概要

私たちは社会との関わり合いの中で、大勢の人々から指導され、激励されながら成長しました。熟年に至った今、社会から受けた恩恵に感謝し、豊富な人生経験や培った知的財産をボランティア活動を通じて社会に還元しようと活動を始めました。

高齢者・障がい者のデジタルデバイド(情報格差)解消を目的として、熟年層が中心となって東灘区とその周辺で活動しています。

主な活動は、シニアを対象とする初心者向けパソコン教室を月３回で３か月間（全９回）を１クールとして、電源の入れ方・マウスの持ち方から始め、中級レベルまで指導します。年に３クール実施し、年間７２名の受講生を指導します。

シニアをパソコンという未体験ゾーンに引き入れ、人生を楽しむツールとしてパソコンを利用することで、高齢者のＱＯＬ（生活の質）を高め、生きがいづくりをサポートしています。

シニアのパソコン教室

東灘区ふれあいフェスティバル

成果

団塊の世代をサザンＶネット神戸の会員に勧誘し、ＩＴサポーターとして活動してもらいます。ＩＴサポーターは、受講生からの手応えに充実感や達成感を持ち、教えることが自分の喜びになり、社会問題の解決にも貢献します。

最初６人で始めた当会ですが、現在、メンバーは 34 人となっています。

課題

障がい者向けパソコン教室や、他のボランティア活動　(例えば、地域に密着した活動)にも取り組みたいのですが、そこまでに至っていないのが課題です。

夢・抱負・今後の推進方向

今後は環境問題にも取り組みたいと考えています。地球温暖化ガス削減は避けては通れない人類の課題であり、迅速な対応が望まれています。我々は３Ｒ(Reduce,Reuse,Recycle)を実践しようと考えています。

団体名：サザンＶネット神戸
代表者：中林　清
事務所の所在地：東灘区森北町７丁目１９番３号
電話：０７８－４１３－１７５１　　FAX：０７８－４１３－１７５１
E-mail：info@nakabayashi.gr.jp　　svnkobe@yahoo.co.jp
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://1st.geocities.jp/svnkobe

ノウハウ・コツ

①人材養成　受講者をメンバーに

パソコン教室の受講者に講座終了後、メンバーになってもらうように声をかけています。自主的に勉強を続けたうえで、講座開催時にサポーターとして加わり、受講者にパソコンの使い方の補足説明をしてもらっています。サポーターとして教えることが勉強にもなります。

また、サポーター向けに月１回パソコン塾を開催し、知識・技術の向上を図っています。もともとパソコンを勉強したいと受講に来た人なので、技術力をあげていくことが楽しさにつながります。ボランティアで協力するというだけでは活動が続かないので、メンバーの学びたいという気持ちをかなえてあげることが重要です。

サポーターが指導を補助

⑨活動の展開　広いテーマで学ぶ

メンバー向けの学習会として、毎月１回「Ｋサロン」を開催しています。ゲストスピーカーを招いて、環境保全（ゴミの減量方法、３Ｒ〈リデュース、リユース、リサイクル〉の勉強や関空の環境問題等）など専門的な講義を聴くことにしています。興味のあることを広くテーマとし、市の職員などに講師依頼することも多いです。これは、生きがいづくりのためでもあり、また、今後、展開できたらと考える地域に密着した他のボランティア活動にもつなげられたらと思います。

Ｋサロン－ゲストスピーカーの話を聞く

Ｋサロン－草木染めの勉強会

ひとことメッセージ

助成金を受けるコツはこまめに申請することです。我々は大阪ガス福祉財団などから助成金をいただきパソコンを購入しました。

情報社会の発展拡充

ミニ新聞によるまちづくり

活動の概要

船坂地域では、自治会、子ども会、老人会などさまざまな活動が展開され広報活動もされていますが、その多くは行事案内で人々の活動や思いはなかなか町全体に伝わりにくいものです。そこで私たちは、地域組織から独立した新聞を発行することにより、その町に住む人々の日常的な生活の様子を伝え、情報の共有化によるまちづくりを始めました。

毎月の編集会議で町の話題の情報を収集し、取材・編集・印刷・配布と担当者を決めながら発行を続けています。

当初、４人で始めたのですが、新聞は思った以上に好評で、地域に声をかけて現在 13 人の編集者で活動しています。

新聞は船坂全域の民家・施設・企業に配布すると同時にホームページにも掲載し、他地域の知人・友人・親戚・転居者などにも読んでいただいています。

船坂新聞

ホームページ　http://homepage3.nifty.com/nishinomiya-funasaka/

２００９．９．１３　第１２号　発行：船坂新聞倶楽部

問い合わせメールアドレス　funasaka.moriagetai@mail.com

盆踊り楽しかったです！！

船坂地区、恒例の１５日の盆踊り大会も途中雨というアクシデントもありましたが、無事終わりました。準備から、大変だったこども会の皆さもみんなで頑張っていました。船坂小近も充実で作った野菜を販売し、１９時半からのスポーツクラブ２！の応えも地域の方に大変好評でしたが、花火師は大変熱い思いをしたようです。未年も是非、校庭で盆踊りが出来ますよう願っています。（馬八　吉美子）

そばの実験栽培−たねまき

そばの実験栽培を始めて、４年目の種蒔を６月２２日に行いました。

場所は市之川公園前、休耕畑を活用し、ボランティアの方々の協力で無事終了しました。収穫は１月中旬を予定しています。

船坂産そばが地域の活性化に寄与できることを願って活動しており、地域外での知名度は徐々に向上しています。

諸条を解消しながら活動を続けていきますのでご支援をお願いいたします。（船坂の農業・農地を考える会）

サークル紹介−バレーボール部

船坂バレーボール部は、クラブとして発足してから２５年になりました。今では、当初からいたのは３人だけになりましたが、中高生や他地域から来てくれる人達で、常に２０人以上の大人数で賑やかに楽しく行っています。（佐野勇夫）

一時期は少人数だった事もありましたのでとても嬉しく思っています。来てくださる皆さんにいつも感謝しています。これからもどうぞよろしく。

毎週水曜日のａｍ７：３０〜９：３０迄しています。興味のある方は覗いて見てください。（バレーボール部　武内英ッ子）

アートイン船坂出展作品募集

１１月１４日（土）１５日（日）に船坂小学校体育館で行われるアートイン船坂は、今回が最後の開催となります。

今回は、特別に校長先生にお願いして、地域の人たちの作品展示スペースを確保してもらいました。絵画や立体作品などを日頃制作されていらっしゃる方は、ぜひ子どもたちと一緒に作品を展示しましょう。

出展を希望される方は、９月末までに応募（９０３−５３２２）まで電話でお申し込みください。

（出展規数・作品の大さ等などにより、出展作品を調整させていただくことがありますのご了解ください）

株式会社　古村間屋　651-1423　兵庫県西宮市山口町船坂280　Tel.078-903-3314 Fax.078-903-3319　http://www.kozaidoya.com

社会福祉法人　児童養護施設　春坂学園　西宮市山口町船坂２１２８−１　ＴＥＬ０７８−９０４−３７７３　ＦＡＸ０７８−９０３−２１７１　子育て支援・相談・出張保育　子育てに関する、どんなことでも一緒に学び考えましょう。（無料）

株式会社　キューコーポレーション　ＴＥＬ：０７９７−７３−０４４１　ＦＡＸ：０７９７−７３−０４４７　E-mail：cuore1991@ztv.com　代表取締役　植松　政嘉

Copyrights 2008 funasaka-shinbun-kurabu. All Rights Reserved.

成果

地域の人々や団体の情報が全体に伝わり、コミュニケーションが深まりました。新旧住民の交流もスムーズになり、地域活動への参加者が増えてきました。

ホームページを通じて他地域の人が船坂地域のことを知り、ビエンナーレ（2年毎の芸術祭）をしてアートで地域を活性化しようという機運も生まれました。

課題

活動資金が無いこと。自治会所有公会堂を無料で使えわせてもらえない状態なので、活動拠点が無く、投稿箱の設置など読者との交流ができなく、ホームページ用のサーバーも無料で使用できるところを使っていますが、容量制限がありホームページのデザインに制限があります。

夢・抱負・今後の推進方向

編集者は 30 代から 70 代まで各世代が揃っており、今後とも新陳代謝をはかりながら、いつまでも発行を続けていきたい。

地域新聞づくりにより、地域団体がより民主化し、地域がより活性化し、若い人たちにも魅力ある町と実感してもらえる地域にしたい。

また、町の歴史などを連載して、この新聞が私たちの住む町の貴重な文献資料として残されるような新聞にしていきたい。

団体名：船坂新聞倶楽部
氏名：代表者　池田　壱和
事務所の所在地：西宮市山口町船坂１５６３−１５
電話：０７８−９０４−３４６７　　FAX：０７８−９０４−３４６７
E-mail：zookian@nifty.com
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://homepage3.nifty.com/nishinomiya-funasaka/index.html

ノウハウ・コツ

①人材養成　負担の少ない役割分担を

船坂新聞に参加する 13 人を編集委員と呼んでいます。パソコン編集のできる７名が月交代で編集作業をし、印刷・配布はパソコン編集のできない者が分担します。

また、毎月第３日曜日に編集会議を開き、取材と記事原稿の担当者を決めます。原稿の提出期限や新聞の発行日は決まっていますが、編集は担当者が都合のよい時にすればよいことになっています。

このようにして各編集委員の負担を減らし、無理をせずに楽しく活動しています。

②活動資金　印刷費は広告料でまかなう

地元の店舗・企業に広告を掲載してもらい、その広告料で印刷費用を捻出しています。発行部数は 300 部ですので、広告料は１店舗・企業あたり月 500 円、半年契約で更新しています。

半年ごとの更新時期になると、掲載枠以上の広告掲載希望があります。どの広告主に辞退してもらうかを編集会議で検討するのですが、嬉しい悩みです。船坂新聞が地域に溶け込んでいる証拠だと思います。

印刷費以外はすべて編集委員の手弁当なので、記事はどこからも制約されることなく、編集会議で自由に決めることができるので気楽です。楽しんで新聞を編集できる決め手かもしれません。

⑤広報・情報共有　住民、地域で働く人すべてに配布

自治会会員には自治会を通じて、非会員には直接配るようにして、町に住む人、施設や企業で働く人たち全員に新聞を読んでもらっています。地域のあらゆる記事を載せ、みんなに情報を共有してもらうことにもっとも気を遣っています。

「ちょっと気になる人」と題する人物紹介が好評で、取材・記事提供には皆さん快く応じてくれます。記事は記名入りとし、地域の人に書いた人の顔も見えるようにしています。

「あなたのことを新聞で読んだよ」と会話のきっかけが生まれたり、行事に参加しなかった人が参加した人から「ほら、新聞に載ってたでしょ」と言われたり、新聞で知ってカフェのコンサートに行く人もいます。校長先生からいつもより多く学校行事に参加してもらえたとお礼がくることもあります。

ひとことメッセージ

町単位の新聞って記事があるの？と発行当初は多くの編集委員が思っていたのですが、毎月発行してみるとＡ４判４ページの新聞に載せきれないほどの話題があります。あなたの町にも話題は一杯あると思いますよ。

情報社会の発展拡充

インターネットでまちづくり、地域情報化の推進

活動の概要

インターネットをまちづくりに活かそうと'97 年に明石市に生まれた市民グループです。

パソコン及びインターネットの利用に関する幅広い分野で、調査研究を行うとともに、不特定多数の市民・団体等に対して、情報格差の是正、地域情報の整備、家庭と教育に関する情報化など市民生活をより豊かにするための事業を行っています。

シニアによるシニアのためのインターネット教室（'08 年～）、交通規制や迷子情報を提供する携帯安全情報サイトの開設（'04 年～）、地域のごみ問題の市民参画と情報の双方向性を重視したホームページの運営（'05 年～）を行うなど、市民生活の利便性を向上する取り組みを多数進めています。

成果

取り組みを進める中で参加者やスタッフの交流の輪も広がっています。

課題

インターネット接続環境を確保する方法が課題でしたが、明石市をはじめ、市内事業者の協力により改善されてきました。今後さらに活動の目的を達成するため、ネット環境の充実、および法人内部の人材育成の強化、関係各所との連携強化が必要と考えています。

夢・抱負・今後の推進方向

さまざまな分野に情報通信技術を活用し、明石を日本一住みやすい町にすること。

「シニアによるシニアのためのインターネット教室」ではシニアの皆さんが、「ケータイ安全教室」ではPTA など保護者の皆さんが、それぞれの分野でインターネットを活用したまちづくりの主役として自立した活動ができるように展開していくことを予定しています。

今後は、SNS という器を活用して、コミュニティの活性化をはかるとともに、若者を中心とした映像制作などを行い、観光・文化など、各種情報を発信し住みよいまちづくりに寄与していきます。

団体名：特定非営利活動法人　明石インターネットパワーズ
氏名：(理事長) 嶋中　聡　　(理事) 増田　幸美
事務所の所在地： 673-0891　兵庫県明石市大明石町１－３－８
電話：078-919-0177　　FAX：078-919-0107
E-mail：info@aip.jp
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.aip.jp/index.html

ノウハウ・コツ

②活動資金　まず実績づくり、次に「提案活動」

NPO など地域づくり活動の団体は、自らの行動で社会に貢献しようという熱い思いがあって立ち上がったはずです。はじめは少ない資金でコツコツと実績を重ね、さらに活動をひろげて行く際に資金が必要になる場合には、助成金制度を活用したり、行政に施策として取り上げてもらうための「提案活動」をすることが必要になります。

⑤広報・情報共有　インターネットは必需品

地域づくり活動団体は、メンバーの多くが本業を持ち、忙しい時間を割きながら自主的に活動を行います。ですから、短時間で最大効果をあげなければならず、そのためには団体間の情報共有が欠かせません。情報共有には、電子メールや SNS などインターネットが必需品になります。

⑨活動の展開　得意なこと、やりたいことを楽しみながら

自主的な活動ですから、楽しくなければ長続きはしません。自分たちにとって、得意な分野であり、やってみたいと思うことに、楽しみながらゆっくり取り組んでいくことが継続の基本だと思います。コツコツ継続することで、周囲からの信頼も増し、結果的に、より達成感や充実感が満たされるような事業を、行政や関係各所と協働して行えるようになってきます。しかしその際も、あくまでも「住民目線」を失わないように自制する心が必要です。

ひとことメッセージ

私たちは、かつて、「インターネット」という技術に触れた瞬間に、「時も、場所も、世代も、性別、職業の違いもすべて越える何やらとんでもない可能性」を感じ、これらをまちづくりに生かそうと、ただひたすらに活動を行ってきました。

技術の進展とともに活動内容も変化してきましたが、その都度、この技術をこういう分野に生かせないだろうかと考える自分たちが一番楽しんでいるのです。この基本があったからこそ、継続してくることができたのだと考えています。

科学技術の振興

科学をもっと身近に・・・
科学を通してのコミュニテイづくり

活動の概要

神代小学校の屋上にある閉鎖された天体ドームを再建したいと立ち上がったメンバーが、子どもたちに夢と希望を！　科学への関心を高めよう！という思いから天体観測会を毎月１回のペースで開いていました。県民交流広場開設の準備をしている頃、ちょうどサイエンスカフェ兵庫が淡路島の洲本市で開かれたのにヒントを得て、県民交流広場の活動の柱の一つとして科学を通した地域づくりを試みることになりました。

科学への関心を深めていくこと、科学の目を通して地域の課題解決へとつないでいくこと、そしてともに生きていくためのコミュニテイづくりをめざし、天体観測会（70回開催）や“サイエンスカフェくましろ”(16回)、手作り望遠鏡教室(10回)、皆既月食･皆既日食の観測会(2回)、星の写真展(6回)などの活動を展開しています。

メンバーは、南あわじ市神代地域の自治会、ＰＴＡ、老人会、子供会、小学校、保育所、神代小学校天体観測ドーム再建準備会のメンバー、地域の有志等です。

洲本農林事務所、県森林動物研究センター、神戸大学サイエンスショップ、兵庫県サイエンスクロスオーバーネット、ＲＣＥ兵庫―神戸、淡路景観園芸学校、神代小学校、淡路三原高校、南あわじ市、洲本市、淡路市、いずみ会等と連携して取り組んでいます。

成果

観測会にはレギュラーの子どもも多く、地域の中で、お手伝いをしてくれるスタッフも増えています。また、南あわじ市地学の会と一緒に星の写真展や皆既日食の観測会をするなど、活動の幅が広がっています。

地域課題をともに考える場としてシカ等の獣害を取り上げましたが、住民が自分たちのこととして問題と向き合う姿が見られるようになり、それぞれの立場を越えたよい形でのコミュニケーションが持てるようになりました。シカ対策を地域全体で取り組むことに成功し、兵庫県のモデル地域となった地区もあります。

シカと人との知恵くらべ花火大作戦

課題

地域課題をみんなで共有し、問題解決のために支え合い、助け合う地域づくりが、結局のところ大きな課題と言えるのかもしれません。

夢・抱負・今後の推進方向

地域のみなさんが支え合い、助け合うことのできるあたたかいコミュニテイを広げていくお手伝いがしたい。そのために、くましろふれあい広場が、地域活動の拠点となって、さまざまなつながりをコミットできる広場でありたい。

シカ対策集落診断の様子

団体名：　くましろふれあい広場
氏名：木田　薫
事務所の所在地：兵庫県南あわじ市神代地頭方１５３８－４
電話：０７９９－４２－１４３７　FAX：０７９９－４２－１４３７
E-mail：pazuru.rk@deluxe.ocn.ne.jp

ノウハウ・コツ

⑨活動の展開　地域のみんなを巻き込む

まずは、地域のみなさんが課題だと思っていることをリサーチして、切り口を作っていくことです。そして、１回目の会から次の会へとどう繋いでいくか、どんな展開をしていくのか、物語をしっかりと組み立てながら、活動をしていくといいと思います。

また、この地域では、地域コミュニテイに対して無関心の人が多いです。地域の中で、ぶつかったり、もめたりすることは少ないですが、人と人との関わりが淡泊なのかもしれません。そういった中で、関心度を上げる工夫をしています。

まずは、広報紙の充実、ポスター、チラシ等の広報活動を大切にしました。また、話題づくりを大切にして、新聞、ケーブルテレビ等でとりあげてもらう努力をしてきました。

⑨活動の展開　参加人数にはこだわらない

参加人数にはこだわらないことです。人数を気にしていると、少ないときに、愕然としてしまいます。それが続くと主催している側が疲れてしまいます。

私たちは動員を掛けたりしません。それでも企画がよかったら人は来ます。

‘09 年に開催した「星空コンサート」には 400 人、「神代おもっしょ祭り」には 300 人、と驚くほど人は集まって来るものです。

「神代おもっしょ祭り」は、地域の多分野の人々との連携を図ることも視野に入れ、企画段階から色々な人を巻き込んで地域の広がりをつくっていきたいと考えて取り組みました。こういったことも参加者の増加に功を奏していると思われます。

ゆづるは山を歩こう

サイエンスカフェの開催

ひとことメッセージ

くましろふれあい広場から問題提起をし、淡路島全域、さらに島外のみなさんとともに、シカ等の獣害から見えてくる環境問題について考える「環境フォーラム in 淡路島」を‘10 年 5 月に開催することになりました。小さな地域での取り組みが淡路島全体へと広がっています。

よく利用する情報源は、市の広報紙、新聞、ケーブルテレビ、ポスター、チラシ、ブログ、まるごと淡路島ホームページ等です。